

理事長コメント（参加型システム研究所・理事会で）

2007年4月

- ・今度の統一地方選挙で残念だったのは、「神奈川の希望の星」であるネットが議席を減らしたことだ。ローカルパーティー論まで掘り下げて分析し、再飛躍への体制を築いて欲しい。もう一つは、国際基準では極右で、欧米では公職に就けないような石原氏が都知事に3選されたことだ。日本の顔・都知事選で極右が圧勝したことで、「日本右傾化」のイメージがさらに強まった。アジア諸国で日本への違和感が高まっている。
- ・キラリと光る結果もいくつかあった。とくに、滋賀県の市民パワーには感銘を受けた。昨年知事選で自公民+連合推薦の現職に対し、環境学者で市民派の嘉田由紀子氏を担いで当選させ、さらに今度の県議選で、嘉田知事を議会で支えるため19名を立てて12名の当選を勝ち取った。この結果、定数47のうち27議席で過半数を占めていた自民党は、11議席を失って16議席となり、過半数を割ってしまった。パニックに陥った自民党は急遽、嘉田知事の「新幹線新駅凍結、ダム建設凍結」などの方針を容認することを決めた。
- ・知事を勝ち取り、議会の構成まで変えてしまった滋賀の市民パワーに脱帽するしかない。ぜひ教訓を汲み取りたい。